

# わかしゃち

第4号 1999・4

土佐中・高同窓会・東海支部会報

編集人/35回生 内田順子

〒460-0024 名古屋市中区正木3丁目13-13 コスモホーム 気付

TEL 052-332-3370

FAX 052-332-3372



## 私のやきもの渡世

三十八回生

井上健郎

（四十歳から焼き物を始めて人間国宝になった陶芸家がいる）と友人が教えてくれた。備前焼の故藤原啓のことであった。

その時私は四十一歳。ある陶芸家から手ほどきを受けたことがきっかけで、焼き物の魅力に取りつかれ、本格的にやってみたいと思っていた時だった。そしてその時期は、それまでやっていたフリーの映画撮影の仕事がある事情で

やめて、アルバイトで食いつないでいた時でもあった。

人間国宝など望むべくもないのだが、この年代から始めても、陶芸家となることは可能であるという証を得たような気がした。この藤原啓の経歴は、私に限らず多くの中年世代が、焼き物を始めるにあたっての励みとなっているようである。

一年間迷った後、東京から瀬戸へ移り、愛知県立窯業職業訓練校で焼き物の基礎を学んだ。

同年輩でここで学んだ人たちは、一様に言うのだが、実に楽しい一年であった。訓練生は十八歳から七十歳までと多様であり、若い女性も数多くいた。へ歳をとってから通う学校の味はまた格別！と聞いたところであろうか。

卒業後訓練校時代から出入りしていた土岐市の青葉太陽氏（茶碗作りの名手である）のもとで、通いの弟子として一年間修業。師匠から個展をやるように言われ、大垣で初個展。

「若くないんだから急げ。それでまず恥をかけ」というものだった。恥もかいたが度胸もついた。瀬戸で独立というかたちをとり、各地で個展をするようになった。初めの数年間は、日当のいい解体屋で不定期のアルバイトをしながらであった。

瀬戸に十年住んで、三年前に、岐阜市から北へ四十キロの山中にある廃校となった小学校分校に越してきました。四年生までが通う複式学級だったので、教室は二つ。教室を工房と展示室とし、宿直室で寝起きしています。

前を、長良川の支流の一つである武儀川の上流で神崎川という川が流れています。実に水のきれいな川です。

猿やカモシカ・タヌキ・アナグマ等が出没します。冬には積雪が一メートルにもなります。

こんな所に越してきた理由は、広いスペースが安く借りられるという、その一言につ

きます。家賃月額五千円也。焼き物の世界では、《一焼き、二土、三細工》というこ

とが言われています。窯をうまく焚くことはそれほど重要で、なおかつ難しいということですよ。焼成の過程でいくら神経を使っても、最終的には火の神様が決めるといふ側面があり、なかなか思うようには焼き上がってはいけません。作ったものが全部うまく焼けてくれたら、もっと儲かるのになあ、と思うことしばしばです。

そして当然のことながら、土も大事です。うんといい土が見つかる、半分は成功したようなものです。多くの場合は製土屋で精製した土を買って使いますが、時には自分で採りにいきます。

土地造成で山を切り崩したところや、林道などで探します。見つかるとそれを少量持ち帰り、《ぐい呑み》か《煎餅状のもの》を作って、釉薬を掛けて、テスト焼きをします。それでいい結果がでると大量に採ってきます。一杯飲

みつ、テスト焼きを見ながら、この土で何を作ろうかなと思案するときは、楽しいひとときです。

ここ美山町でも何種類かの面白い土が見つかりました。今、せっせと掘りにいっているところですよ。

三細工とはいいますが、細工あつての焼き物であり、最終的に焼き物の良し悪しを決めるのは、器形の良し悪しです。見る目を養い、鍛え、日々精進あるのみです。ロクロや紐作りで器を作る作業は結構楽しいものです。(ものよつてはめん

どうだと思ふ作業過程のものもありますが)ただ、一人でやる作業なので、仕事のあと同僚と一杯やるという楽しみからは、遠ざかってしま



岐阜県美山町の陶房の雪景色

ました。

それに体力仕事です。五十を過ぎて、だいぶ衰えてきました。十年前の体力をもう一度取り戻したい、と思う今日この頃です。

# 学校だより

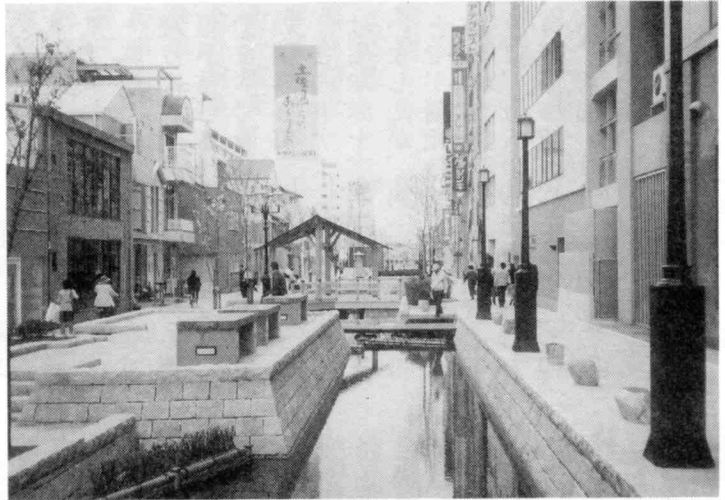
学校長 森田 幸雄

この度の東海支部会報『わかしやち』第四号の発行を心からお喜び申し上げます。

さて、土佐路は、阪神・西武・ダイエーの三球団、加えてサッカーのコンサドーレ札幌のスプリングキャンプやオープン戦で、近來にない大フィーヴァーが続きました。特に阪神監督ノムさんと、西武大物ルーキー松坂君の人氣は爆発的でした。それに前者とは全く異質の、この上なく厳肅な事柄ながら、高知日赤病院を舞台にした、脳死に関する超過密報道合戦も行われ、まことに騒然とした二月でした。

幸いなことに、本校に関しては、学年末諸行事が、平穩かつ恙無く進行中ですので、ご休心のほどお願いいたします。

主だった行事としては、去る一月三十日、第七十四回高



新装なったはりまや橋付近の風景（東を望む）

校卒業式が、岡村同窓会長さんにもご出席いただき、盛大かつ肅々と挙行されました。男子一七八名・女子一二一名計二九九名の、初々しい同窓会員の誕生です。先輩諸兄弟の温かいご指導とお引き立てをお願い申し上げます。

次に二月十六日から三泊四日の日程で、高一生のスキー

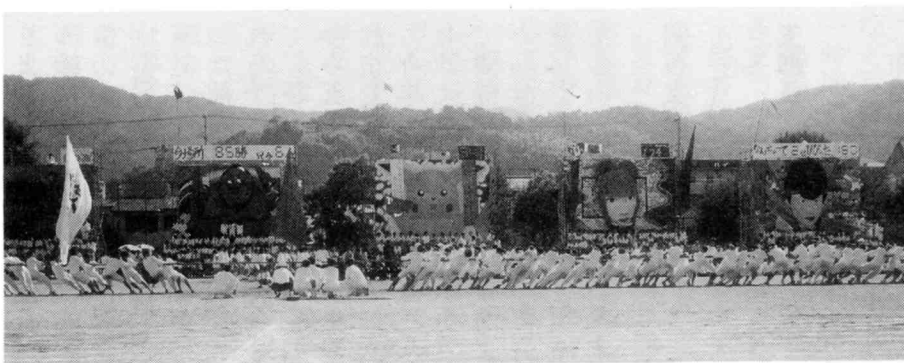
による集団研修が実施されました。今回は上越新幹線を利用したの力作『雪国』の地・越後湯沢での研修となり十九日無事帰校いたしました。

昨年までの貴支部管内の菅平高原からの転出となりましたが、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

このほか、二年に一度の向陽祭（文化祭）が開催され、中学校合唱コンクールの含む多くの発表や趣向を凝らした展示が、生徒諸君の積極的な参加を得て行われ、盛況裡に終了することができました。

ここで本校入試に関する新しい取り組みをご紹介します。高校については、学力試験を課さない推薦入試を導入いたしました。中学校長か

らの内申書と課題作文により定員の三十%を選考いたしました。結果は優秀な生徒諸君多数の応募があり、狙いどおりの成果を収めることができました。



1998年度母校運動会での綱引き競技

# 同窓会あちこち

また中学校については、従来より約一か月早く入試を実施し、厳しい少子化情勢のもと優秀生徒の獲得に努めました。以上入試に関する新しい試みをご紹介しましたが、生徒数確保について、諸先輩からのご提言等をお寄せいただければ幸いであります。

## 南国土佐だより

幹事長 三十四回生

岡内 紀雄

東海支部のみなさん、お元気ですか。

高知では、このところ立て続けに世間の耳目を集める情報が発信されました。

①日本で最初の脳死患者からの臓器移植

このドナー（臓器提供者）は高知赤十字病院に入院していましたが、第一号ということで、脳死の判定が慎重に行われた結果、家族の同意のもとに、五人の希望者に臓器と角膜が移植されました。この間、新聞・放送・週刊誌の記者が全国から取材に訪れ、その取材ぶりに批判の声も聞かれました。

②《非核港湾》条例化問題

高知県に入港する外国艦船が核兵器を搭載していないことの証明を外務省に求める《非核港湾》の条例化を橋本

知事が議会に提案。（外国艦船の入港については国の専管

事項であり、本件は地方自治体の越権行為である）として、国や自民党県議団から猛反発を受けました。修正提案も出

されましたが、三月十一日、県議会企画建設委員会で継続審査が決定し、本会議でも同様の決定がなされることが予想され、四月十一日には県議会議員選挙が行われることにな

っていることから、臨時議会の開催は困難であり、廃案となるものとみられています。

③桂浜の龍馬像の修復

建立から七十年を経て、内部の老朽化が進んでいた坂本龍馬の銅像の修復工事が始ま

りました。一時龍馬像を台座の横に降ろし、台座ならびに像の内部の補強・修復を行い、再び像を台座に設置して、三月二十八日には《元気なつた龍馬像》の除幕式が行われる予定です。この資金として、ひろく全国の団体や個人から五千万円の寄付が集められました。

今年の同窓会総会は、八月七日（土）高知新阪急ホテルで開催いたします。東海支部のみなさん、龍馬との再会を兼ねて、おそろいでご出席ください。お待ちしております。

関西支部だより

支部長 二十九回生

永野 元玄

東海支部の皆さん、こんにちは。昨年の会合に初めて参加させて頂きましたが、その折には大変有難うございました。とても楽しいひとときを皆さんとともに過ごすことができました。スナップもた

末筆ながら先輩諸兄姉のご健勝と貴支部のいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

（平成十一年三月六日

啓蟄の日）

くさん送って頂き、改めて親近感を覚え、同窓の集いはいいものだなあと思いました。

世の中、厳しく暗いことが多いですが、今年は少しばかりは明るさが出てくるのではないのでしょうか。(と思いたい)

元気を出してプラス指向で行こうではありませんか。

さて、当支部は今年の総会を、去る二月十九日、新阪急ホテルで開催しました。貴支部からは南事務局長に、お忙しいなかご参会頂きました。その中で支部の近況などについてスピーチ頂きましたが、なつかしい土佐弁を交えた軽妙なユーモアと、面白いお話に会場はドツとわきました。有難うございました。

今回は、母校から森本教頭(三十二回)のご出席を得て母校の近況報告をして貰いました。

特別ゲストとして、昭和二十六年から永年にわたって英語の教鞭をとられ、今度ご退任される中沢節子先生にご参加いただきました。先生を慕

つての参加者も多く、旧交を温めておられました。とりわけそのスピーチでは、大嶋光次先生とのめぐりあいから様々なエピソードを含め、母校への愛情と願望をこめた熱誠溢れるお話は、感動的で胸を打たれました。これからもお元気に過ごされることをお祈りする次第です。

当支部が発行している『ななぷう』は、しばらくサボッていましたが、先般、第十九号として発刊しました。少しカラーを入れたりしましたがややダイエツトしすぎたかもしれせん。(ご覧になってなければスミマセン)

私事にもつながりますが、昨年小生が貴支部会合へ参加させて頂いた席上、島津製作所へお勤めの前田さん(三十七回)にお目にかかりましたが、実は娘ムコが同じ島津に勤めていまして、一瞬のうちに距離が縮まり、早速そのご縁をつないだ訳ですが、前田さんのお気遣いにより、京都の本社事務所で面談頂いたそうで、ムコは大変喜んでいま

したし、心強い限りだと言っていました。ひよんなことからタテ糸・ヨコ糸が拡がるものですが、同窓生の集い、ご縁というものは有難いものだと思います。

皆様方と、またお目にかかれる機会を楽しみにしています。松崎支部長様以下会員の方々のご健勝ご多幸をお祈りします。

## 香川支部だより

幹事長 四十回生

武山正人

向陽会香川支部です。日頃は、いろいろな情報ありがとうございます。会員の皆様には、各方面での活躍、誠に頼もしい限りです。

香川支部は発足して二年になります。支部長の土田先生(香川大学教授、三十二回)を中心に、旧交を温めております。

平成十年三月に母校を退職された松尾功祿先生を囲む集いを、私たち四十回三Kホールの有志で、昨年の夏に行いました。先生には、担任として高二、高三とご指導を受けました。

このクラスは、なんぼか悪かったらしく、先生にはいろいろと迷惑をかけました。特に、体育祭のとき、ご指導も聞かず景気つけにと手製みこしをかついで、帯屋町、追



関西支部での中沢節子先生

昭和39年11月1日 (日曜日)



目抜き通りをねり歩く

高知市

運動会や学生祭のP  
Rで土佐高と高知大  
ワッショイ、ワッショイ

手筋、土佐女子高前と練り歩き高知新聞にデカデカと報道されたためか、担任として学校からえらくおこられたとのこと。  
今思うと、四十回三K、大変なクラスを受け持っていただいたことになります。  
その他にも度重なるはみ出し行動で心配をおかけしたお

詫びを兼ねて、元三K有志十二名(女性三名)が集い、《松尾先生の卒業式》となった次第です。紅顔の悪ガキも今やハゲのオッサン、純情可憐な乙女もイイオバサンになつており、現実を再認識することになりました。なつかしい新聞記事を同封します。  
香川の高知県出身者にはな

勇ましいけり声に集つて、三十一日の午後、二組の学生、生徒が高知市の目抜き通りをねり歩いた。土佐高のミコンと高知大の仮發行列で、ともに運動会や学生祭のPRをねらったのだ。  
土佐高のミコンは、女生徒もまじえ、四十人がくり出した。一日に開かれる運動会のPRのためだが、要諦総論のストレス解消とも見られるが、効果のよさ。ミコンは四斗ダレと旗を組み合わせ、一カ月も前から合作した。士人がかつ着他の生徒は天下を取れ、大学入學などと書きしるが、プラカードを押し立ててシブサバ道場、男生徒はそれのハッピートレーニングパンツ、女生徒は長いガパンにゆかたなどというてちで、運動会の陣にヒラを配つて歩いた。  
高知大学の仮發行列は、文理、農、教育三学部の学生百人が参加し、こしは特に女子学生の多いが目立った。  
「光澤氏七人の名」一校、お歴々の恋愛の、鉄人二十八号などのマンガもの、ムシロ旗を押し立て、「茶臼揚げ反対」と書いたり。いずれも趣向をこしらへたもので、これまた旗旗で、このお配り、一日から始まる学生祭のPRにため、進行への足をこめていた。写真等は、現代の子高坂生(のミコン)の巻(高知市道手版で)

関東支部だより

事務局長 四十一回生

鶴和 千秋

じみ深い『土佐っ子高松店』が今年の三月末でお店を閉めるとのこと、残念でなりません。社長は、四十回の島井清英君のお母さんで、向陽会にもたびたび利用させてもらいました。お世話になりました。四国から近況をお知らせしました。

は。東海支部の皆様、こんにちは。

ふるさと高知を未曾有の大水害が襲った平成十年が過ぎ、松坂、野村ファイバーに、橋本知事の高知港湾非核化発言、日本初の脳死臓器移植と、この春は高知発のニュースが日本中を駆け巡りました。関東支部では、昨年三年ぶりに支部名簿を更新致しまし

た。支部会員二六四一名が掲載されており、東海支部事務局にもお預かりいただきありがとうございますので、是非ご利用ください。また、昨年十二月には、支部会報『筆山第二十五号』を発行致しました。五月の東海支部総会でお配り頂けるものと思います。ご感想などお待ちしております。

関東支部の今年の総会は、六月十二日(土)例年通り、渋谷区代々木の(国立オリンピック記念青少年総合センター)で行います。今年も若い同窓の大勢集まる活気溢れる集いにすべく、幹事一同アイデアをしばっております。新幹線だと隣の駅です。東海からのご参加を手を広げてお待ちしております。

ところで、関東支部でもホームページを開設しました。アドレスは、  
http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwakaantosisu.htm  
です。こちらも一度覗いてみて下さい。ホームページを通じてのお便り、情報の交換もまた楽しいものです。

# 広島支部だより

事務局次長 三十七回生

小島 康

村進介氏(三十回生)から、新支部長は沖修一氏(四十回生)にバトンタッチ。支部長以外は、全員留任となりました。一期二年の顔触れは次の通りです。

顧問	岡村進介 (30)
支部長	沖 修一 (40)
事務局長	小島一洋 (31)
事務局次長	小島 康 (37)
会計監査	天田 充 (26)
会計幹事	中山和敏 (40)
幹事	大西賢一 (27)
幹事	宮田賢二 (33)
幹事	沖田道子 (41)
幹事	山本 紳 (55)
事務局	岡村一成 (50)
山口県幹事	妹尾加代 (35)

世の動向を他所に、自然は巡り三月。ここ事務局のある団地の、眼下に広がる早春の穏やかな瀬戸の海を眺めていますと、何かよいことありそうな幸福な気分になってまいります。

さて、一月二十三日(土)に、平成十一年の広島支部総会・懇親会をメルパルク広島にて開催しました。ご来賓七名・支部会員二十名の出席でした。

総会では役員の変更が行われ、支部発足以来十年間支部長を務めてくださいました岡

また、去年の二月から開催されている月例会(青春の集い)は、毎月第三水曜日に変更。アフターファイブに小料理屋《梅太郎》に参集し、焼酎《龍馬》をやりながら、土佐弁でおしゃべりしているうちに、いごっそう・はちきん

丸出しとなり、広島にあつて気分は土佐の高知。「さあ、明日からまた頑張るぞ」と力が漲ってまいります。

本部の会員さんで、広島出張のたびに、どっぶり《梅太郎》に填まっているご仁がいらつしやいます。お惣菜風の気取らぬお料理と、はちきん顔負けの女将の人柄によるものと思われます。東海支部の皆さんもご来広の節には、ぜひお足を運んでみてください。

住所電話番号「広島市中区境町二一五〇一七 TEL〇八二一二九三三六九九六」

続いて《竹村先輩大いに語る》という演題で、竹村照雄氏(二十回生)に、元高検検事長のご経験から、現弁護士活動の中から、また女子大理事長として教育現場から、思いの丈を大いに語っていただきました。

- ① 幼児教育の大切さ
- ② 子供は良くも悪くも与えられた環境の中で育てられる

③ 人と人との出会い  
④ 人間は本来互いに尊敬されるべき存在でなければならぬ

⑤ 各々に言い分はあるうが、けじめを持つこと自体も教育である  
など琴線に触れるお話満載の一時半でした。

懇親会では、学校・本部・各支部の活動報告がなされ、支部名物《三分間スピーチ》にて全員がマイクの前に立ちご自身の近況報告。集う同袍和氣藹々、杯を酌み交わし、スクラム組んで応援歌を合唱してお開きとなりました。

年々出席者が減少、高齢化してゆくことに、事務局として、大いに責任を感じています。名簿の点検・確認・編成が目下の急務です。

また、支部会報誌『青春』の刊行が諸事情重なり、実行されておられません。若年層の総会への勧誘とともに、大きな課題です。

なお、平成十二年の広島支部総会は、一月二十二日を予定しております。

## ダンススマイライフ

三十回生

田村友二郎

今、ダンス界が過渡期にある。一昨年、IOC（オリンピック委員会）が、ボールルームダンス（社交ダンス）を競技種目に承認したことにより、文部省もダンスをスポーツとして認めざるを得なくなり、昨年五月《風俗営業法》からダンススクールを除く」という改正法が国会を通り、十一月一日ようやく晴れてスポーツ界の仲間入りとなった。これまで、《風俗営業法》で《学校・病院の近くではダンス教室はできない》とか、《ダンスホールの認可を得ないと教室の認可が出ない》など、かなり肩身の狭い思いをしてきたダンス界にとっては大きな朗報である。

それに『SHALL WE DANCE?』のヒットや、ウツ

チャン・ナンチャンのダンスが人気を呼んだことなど、ちよつとしたブームになっているのが現状である。

私とダンスの出会い、大入学と同時にあった。家からの仕送りに無理があったので安上がりの下宿を見付けるため、捜し当てたのが、ダンス学校の住み込み留守番であった。事務室の奥に二段ベッドがあり、七輪で煮炊きができる自炊生活である。当然《門前の小僧習わぬ経を読む》で二年もすれば踊れるようになり、資格試験もパスした。

当時は懐かしい。

都内の電車は全て十円。住民票も配給証明書で、区役所に行くとき外食券が貰え、外食券食堂があつて、十二〜十三円でご飯・味噌汁・他一品で食事ができた。

新宿東口は未舗装で、春先には土ぼこりで百メートル先も見えないほど。駅の回りにはよしよし張りの屋台が並び、タバコもバラ売りで、三本、五本と買ったこともあった。今の都庁舎のある新宿西口

も、淀橋浄水場跡が草茫々で広がっていた。隔世の感がある。

そんな時代であったが、なぜかダンスは盛んであった。歌舞伎町だけでも十軒ほどのダンスホールがあり、キャバレーに行ってもダンスができないと面白くなかった。

私は、仕事は全て中途半端に終わっている。貿易会社・証券新聞社・自動車会社等に勤めた。最後に火災報知器の販売を始め、岐阜店を作ったが、これも親会社の倒産により閉鎖。

失業中、経営不振のダンスホールを手伝ったのがきっかけで、じゃあ自分で始めてみようかと思ひ、教室を作つてもう十六年になる。

幸い、よきパートナー（現妻）に恵まれ、当初は苦しかったが、二人三脚で頑張り、四〜五年目頃から、海外旅行でも行つてこようかと思ひえるようになった。

《芸は身を扶く》というのがその見本のようなものだと思つている。



ブランクが長かったので、教師資格試験も一から取り直して、最終段階まで取得できた。保守的なダンス界で、よそ者の存在であったが（東京で資格を取つたため）、その垣根もなくなった。

若い頃より不整脈があり、一昨年過労がたたつて心不全という診断を受け、初めて心臓弁膜症であることが分かった。大動脈弁の縮まりが悪く血が逆流しているので、無理をすると心臓肥大になるやつ



かいなものだ。すぐにも人工弁を付けたほうがよいと言われたが、しかしダンスで鍛えられているためか、常識が通用しないほどの回復ぶりで、今は以前より体調がよい。

無理の利かない歳になっていくことも忘れるが、少しセーブしながら生涯現役と、年二回ほどの海外旅行を楽しんでいこうと思っている。

ダンスは若返りの特効薬であり、若かりし頃にダンスを覚えていてよかったなあと思える、今日この頃である。

\*写真 岐阜県の依頼で『いきいき健康フェア』に出演したメンバーの一部。後列中央二人が田村です。

## 土佐と愛知県

### 比較雑感

六十一回生

宮地 純央

私は現在、某損害保険会社の自動車事故処理に携わって

おります。入社後の最初の配属が高知（土佐校出身を考慮されてか）であり、次がここ名古屋（もう四年目）です。

今回の『わかしゃち』への投稿にあたり、仕事を通じて私なりに見た土佐（高知県）と愛知県の県民性の違いについての考察を、簡単ではありますが述べたいと思います。

職業柄、自動車事故で被害に遭われた方と話をさせて頂くことが多いのですが、事故という一種の非常事態での人間の行動・反応を観察していきますと、普段では潜在化している人々の傾向性・人格・共通する気風がそうした場面で表面化し伺えます。

両県民性を総括すると土佐は豪放磊落、愛知県は温和といったところでしょうか。

まず土佐人の場合、その気質は全般的に直情径行型（瞬間湯沸器型）です。例えば被害に遭われた方の多くが、「保険屋出てこい！」

とすぐに言います。そこで事故を惹起した加害者（＝保険のご契約者）の代わりに面談

に行くのですが、《おらび回る人》に当たる確率は愛知県より遥かに高いです。

ただし話が決まる時は早いです。（理屈よりもこちらを信頼して頂けると交渉成立の運びとなることが多い）

一方、《はちきん》の伝統は健在です。奥様が強い実権を握っているご家庭の方との交渉では、ご主人が「了解」でもだめです。最終決定は奥様に何う必要がある事例が少なからずあったのには、正直戸惑いました。

愛知県の場合、尾張と三河で分類すべきかもしれませんが、土佐よりは概して平穩ですね。またいきなり「出てこい」要請も、土佐より少なく感じます。県民所得はこちらが高いせいか、保険金を要求するにあたりまして《おらぶ》ような方は少ないと感じます。

ただし、事故件数は愛知県の方が圧倒的に多く、一方では話を持ってゆくにもきちんとした説明が求められる場合が多い点では、土佐と少し違

うというのが私の印象です。

最後に誤解がないように申し上げますと、私は両県にそれぞれ味と良さがあると思います。ただ、愛すべきはやはり土佐の風土から生ずる独特の気性ではないでしょうか。

もっとお話申し上げたいことはありますが、紙面の都合上私の持論展開はここまでとさせていただきます。詳しくは次回土佐校同窓会東海支部の会合で、酒でも飲みながらお話できればと思います。その時はよろしくお願い申し上げます。

それでもやっばり

三十七回生

陳 正子

早いもので愛知県民となつて、もう三十余年の月日が過ぎました。日常生活の雑事にかまけて、だんだんと高知とは縁遠くなるばかりです。

初めはなじめなかつた名古屋

屋弁もいまやすつかり自分のものとし、あまりに濃い色にびっくりした赤だし味噌も、そのコクのある味わいに舌つづみを打つという毎日です。

名古屋生まれで名古屋育ちの夫を相手では、土佐弁を使うこともありません。愛知県民としての必要条件といわれる《中日新聞》を愛読し、プロ野球ではもちろん《熱烈な中日ドラゴンズファン》であり、シーズンが始まれば、その勝敗に一喜一憂することとなります。

余所者には冷たいといわれる土地柄でも、お稽古事や子どもの成長につれての友人も結構たくさんできたし、ときにはオバサン同士徒党を組んで、シヨッピングやグルメにと、あちこち荒らし回ってもいます。こんな調子で日々を送っているものだから、高知出身とか土佐高出身ということを意識することはほとんどないわけです。

しかし、しかしである。春と夏の高校野球が始まると、これが一変するのである。高

校野球だけは土佐高でなければ絶対に駄目なのである。たとえ息子の出た高校であっても、愛知県勢は問題外なのである。

その昔、中学・高校の時から、高知市営球場へ通い、声をからして応援し、時には悔し涙を流し、時には歓喜の声をあげた日のことが、懐かしく思い出される。

高知にいる友達とも、土佐高が甲子園へ出場した時は必ず応援に行く、という暗黙の了解ができていた。

前回甲子園へ行ったのはもう五年も前になるだろうか。あのときは本当に楽しかった。少しお年を召されはしたが、お元氣そうな恩師の姿も拝見できた。関東支部の方々はお揃いのトレーナーを着用しての応援で、驚かされた。関西支部の方々には、試合後すつかりご馳走になった。久しぶりに会った友人達ともにぎやかに挨拶をかわし、老いも若きもいっしょになって、土佐高ナインの活躍に心はずませたものだった。

ああ、こんな日が、この次はいつになるのでしょうか。土佐高は野球だけの高校じゃないから仕方ないかも……と思いつつも、甲子園出場を心待ちにしながら、新聞のスポーツ欄で、地方予選の結果をチェックしております。

ことほどさように、高校野球のこととなると、日ごろの《尾張のオバサン》はガラリと一変して、土佐っ子の血が騒ぐわけです。

高校野球への思いを書きだすときりがないので、これくらいにして、土佐弁が恋しくなったら、年二回の東海支部同窓会に出席して、心を癒すことといたしましょう。

そこにはかつてのイゴツウやハチキンが、心優しい紳士や、気さくで面倒見の良い熟女となって、楽しく心穏一席を共にすることができま

す。同窓会といえば、やはり南穀一氏のことと言及しておかねばと思います。

南穀一さんは事務局長として雑事を一手に引き受け、全

体をまとめ引つ張っていつてくれます。そのご苦労を思うと頭が下がります。

また県人会ゴルフコンペのときには、気前よくハンディをくれて、《要ダイエツト》の私にいつもチョコレート代を恵んでくれる南穀一氏に、心からなる感謝を捧げる次第です。

### 編集後記

なごや・ん?

土佐高同窓会東海支部の総会にぜひご出席ください。一九九九年五月二十二日午後六時ねぼけ（ペルコ八階）にて。パソコンの時代に乗遅れんようにがんばりゆうけんど、息子がオオノーというほど覚えが悪くて、悪戦苦闘しゆうところですよ。みなさん教えて下さい。

（内田順子）

